

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科		看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名		論理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	階段教室
担 当 教 員		横山 ひとみ	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》 正しい思考過程を経て真の認識に達するために、思考の法則・形式を明らかにする学問である。現代の看護実践には科学的根拠を追及する思考が必要である。論理学を用いて論理的思考ができ、効果的に看護実践に活用する方法を学ぶことをねらいとする。 1. 物事の筋道を理解して順序立てて考えることができる 2. わかりやすく表現できる能力を養う							
《成績評価の方法と基準》 小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する							
《使用教材(教科書)及び参考図書》 論理の基礎と活用 北樹出版							
《授業外における学習方法》 講義で学んだ論理的思考のあり方を普段の生活の中で活用し、論理的思考能力を養うようにする。							
《履修に当たっての留意点》 基本的な用語の理解を重ねていけるようにしてください。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 論理学を学ぶ意義について説明できる。 2. 他者を尊重しつつ、自分の意見を述べるため のあり方について述べるこ うができる。		教科書 授業資料 演習問題	論理学とはどのようなものか教科書のイントロダクションを読んでおく	
		各コマにおける授業予定	ガイダンス、イントロダクション 「主張相互の関係」の講義と演習問題を行う				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.論理的思考における暗黙の前提について説明できる。		教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	「暗黙の前提」の講義と演習問題を行う				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 推論とはどのようなことか説明できる。		教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	「妥当な推論」の講義と演習問題を行う				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 三段論法の思考のあり方について述べるこ うができる。(肯定式、否定式)		教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	「論理カトレーニングⅠ」ならば、または、に ついても講義と演習問題を行う(過言三段論法、肯定式、否定式)				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 三段論法の思考のあり方について述べるこ うができる。(両方論法)		教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	「論理カトレーニングⅠ」ならば、または、に ついても講義と演習問題を行う(過言三段論法、両方論法)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 全体と部分について論理的に考える思考法について説明できる	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	「論理カトレーニングⅡ」すべて、ある、についての講義と演習問題を行う		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 集合の関係を踏まえた論理的な思考のあり方について説明できる。	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	「論理カトレーニングⅡ」定言三段論法とベン図についての講義		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 判断と思考をつなぐ推論、推測、演繹、帰納の基本的な用語について説明できる。	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	推論と推測、演繹と帰納についての講義		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 新しい知識を創造していくための論理的思考のあり方について述べることができる。	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	知識成長・改善と論理についての講義		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 論述文とはどのようなものか説明できる。	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	知識成長・改善と論理についての続きを講義 論述文と論理の講義を行う		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. 論理的思考を用いて文章を書くことができる。	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	論述文の要旨を書くトレーニングを行う 論述文(短)を書くトレーニングを行う		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. 他者の表現から論理的思考について考え、よいものの根拠について述べることができる。	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	グループディスカッションを行い、今後に活かそうな他者の要旨や論述文について、よいものを理由と共に挙げる		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. 論述文を読解し、その内容の要旨を記述できる。	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	論述文の読解、および要旨を書くトレーニングの2回目を行う		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. 問題解決思考の構成について理解し、思考を記述できる。	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	論述文(長)を書くトレーニングを行う 問題解決と論理についての講義を行う		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. 他者の表現から論理的思考について考え、よいものの根拠について述べることができる。	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	グループディスカッションを行い、今後に活かそうな他者のよい点等について議論した		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	看護と人間工学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	階段教室
担 当 教 員	松本 健吾	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
看護の場面では物理的なものの見方や、人間の体の運動生理学と力学を関連させたメカニズムを理解し、安全・安楽な移動の援助に活用する。						
1. 様々な現象を物理学的に理解する手法を身につける						
2. 現代の科学技術の基礎として物理学の役割と重要性を知る						
3. 医療を実践していく上で必要な物理学的思考を身につける						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
ベッドサイドを科学する 学研						
看護学生のための物理学 医学書院						
《授業外における学習方法》						
日ごろの生活の中での現象を学習内容と照らし合わせて、物理学的な視点で観る目を養う。						
《履修に当たっての留意点》						
予習・復習をすて¥¥						
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	1. 体位変換の原理となる物理的原理について述べるができる。		教科書 授業資料	教科書の該当章を読ん おく
		各コマに おける 授業予定	第一章 質点の力学 ・力のつりあい、合成、分解 ・基本単位と組み立て単位 ・ニュートンの運動法則			
第2回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	1. 人が転倒しやすくなるのを防ぐための物理的原理について 述べるができる		教科書 授業資料	教科書の該当章を読ん おく
		各コマに おける 授業予定	第一章 質点の力学 ・力の単位、垂直抗力、摩擦力 第二章 トルクとは、剛体のつりあい			
第3回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	1. 人が安定しやすい体位を得るための物理的原理について 述べるができる。		教科書 授業資料	教科書の該当章を読ん おく
		各コマに おける 授業予定	第二章 剛体の力学 ・三角比、トルクの計算、重心と安定性			
第4回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	1. 人が安定しやすい体位を得るための物理的原理について 述べるができる。 2. 点滴の原理について述べるができる		教科書 授業資料	教科書の該当章を読ん おく
		各コマに おける 授業予定	第二章 剛体の力学 ・体位変換 第一章 質点の力学 ・速度と単位、点滴の速度			
第5回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	1. 血圧、酸素ボンベ、低圧持続吸引など圧力との関連につい て原理を述べることができる		教科書 授業資料	教科書の該当章を読ん おく
		各コマに おける 授業予定	第三章 流体 ・比重と浮力、粘性 第四章 圧力 ・圧力、気圧			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 6 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	1. 点滴やドレーンの基本原理となる物理的現象について述べる ことができる。	教科書 授業資料	教科書の該当章を 読む
		各コマに おける 授業予定	第四章 圧力・水圧、血圧、酸素ポンプ、サイフォンの原理		
第 7 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	1.看護に必要な電気の基本について述べる ことができる	教科書 授業資料	教科書の該当章を 読む
		各コマに おける 授業予定	第六章 熱現象、比熱 第七章 音、音の三要素 第五章 電圧、電流、抵抗、アース		
第 8 回		授業を 通じての 到達目標			
		各コマに おける 授業予定	終講試験・レポート		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科		看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名		情報科学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	PCルーム
担 当 教 員		鈴木 大空	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》 情報科学社会にある現代の個人情報の意味や課題などを学び、情報収集する際の取り扱いの意味を理解する。さらに、コンピュータの基本構成・動作を理解し、効果的伝達手段の活用方法を学ぶ。 また、レポート作成・プレゼンテーション・電子カルテ等に応用できる能力へとつなげていく。 1. コンピューターに慣れ親しみ、演習を通して、その基本的な操作方法やソフトウェアの使用方法を習得する							
《成績評価の方法と基準》 小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する 出席(20%)、実技試験(20%)、授業態度(20%)、筆記試験(40%)							
《使用教材(教科書)及び参考図書》 1人1台ずつのコンピュータで演習を行う。 情報リテラシーWindows7/Office2007 系統看護学講座 基礎分野 統計学 医学書院							
《授業外における学習方法》 コンピュータに触れる機会があれば、学習内容を振り返り取り入れていく							
《履修に当たっての留意点》 情報倫理には十分に留意する							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	1. ワードを入力できる		授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく	
		各コマにおける 授業予定	タイピング練習、Word文書入力まで				
第2回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	1. 書式設定を行い、ワード文書の作成ができる		授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく	
		各コマにおける 授業予定	タイピング練習、書式設定、練習問題				
第3回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	1. ワード文書で表作成ができる		授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく	
		各コマにおける 授業予定	Word、表の設定、練習問題、タイピング練習				
第4回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	1. エクセルの入力ができる		授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく	
		各コマにおける 授業予定	Excel、計算式の入力、タイピング練習				
第5回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	1. エクセルで関数設定、グラフの作成ができる		授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく	
		各コマにおける 授業予定	タイピング練習、Excel、関数の設定、グラフの作成				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. ワード、エクセルでの入力ができる	授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	タイピング、Word、Excel、小テスト		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. エクセルで資料作成ができる	授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	タイピング、Excel、データベース、練習問題		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. パワーポイントの作成ができる	授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	タイピング、パワーポイント、書式		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. パワーポイントでアニメーションの設定ができる	授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	タイピング、パワーポイント、設定、アニメーションの設定		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. エクセルで課題にそって文書作成ができる	授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	Excel問題集		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. エクセル、ワード、パワーポイントを組み合わせて作成できる	授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	Word、Excel、パワーポイントの連携、復習		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. エクセル、ワード、パワーポイントを組み合わせて作成できる	授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	Word、Excel、パワーポイント 実力テスト		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	1. パワーポイントで課題作成ができる	授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	パワーポイント課題作成		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	1. 作成したパワーポイントでプレゼンができる	授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	パワーポイント発表会(テスト)		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. エクセルで速やかに文書作成ができる	授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	Excel実力テスト タイピング練習		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	哲学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	前期	教室名	階段教室
担 当 教 員	竹島 尚仁	実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》					
哲学の基本的な考え方を概観しつつ、とりわけ倫理的な価値をどのように扱うかという点について、現代社会の出来事と照らし合わせながら、哲学的な思考を身に着けていく。その過程で、現代における哲学的・倫理的課題や歴史上の哲学的・倫理的学説に触れる。これらの学習から、医療者としての倫理意識を高めていく。					
《成績評価の方法と基準》					
終講時レポート評価(100%) 提出期限に遅れた場合は減点対象となる					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
教科書は使用しない。必要な資料は配布する。また参考文献を随時紹介する。					
《授業外における学習方法》					
映画、小説やいろいろな人の生き方や価値観、また現代社会において生じているさまざまな出来事やその背景に関心を持ち、それらについて哲学的・倫理的な洞察を深め、自分自身で物事を判断できる力を身につける。					
《履修に当たっての留意点》					
授業内での質問や応答を通じて積極的に授業に参加する。					
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.哲学とはどのような学問か、諸領域にどのような内容があるか理解し倫理学の必要性について述べるができる。	授業時配布資料	関連資料を読んでおく
	講義形式	各コマにおける授業予定	哲学の諸領域と倫理 倫理とは(1)		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 哲学と倫理の大前提である「自由」がもつ意味を説明できる。	授業時配布資料	前回授業資料を読んでおく
	講義形式	各コマにおける授業予定	倫理とは(3) 倫理と自由、自由と強制		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.生命とその価値について述べるができる。	授業時配布資料	前回授業資料を読んでおく
	講義形式	各コマにおける授業予定	生命とその価値について哲学的・倫理的に考える。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 人格的生命について自分の考えを述べるができる。	授業時配布資料	前回授業資料を読んでおく
	講義形式	各コマにおける授業予定	人格とは何か		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 人間にとっての死への恐れについて自分の考えを述べることができる	授業時配布資料	前回授業資料を読んでおく
	講義形式	各コマにおける授業予定	死への恐れ		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 6 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	1. 人間にとっての人生に意味について、自分の考えを述べるこ とができる	授業時配布資料	前回授業資料を読んで おく
		各コマに おける 授業予定	人生の意味		
第 7 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	1. そもそも行為を評価するうえで、どのような視点をもつべきか を述べることができる。	授業時配布資料	前回授業資料を読んで おく 課題レポート作成
		各コマに おける 授業予定	行為をどう評価するか——功利主義と義務論を超えて		
第 8 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標			
		各コマに おける 授業予定	終講試験・レポート		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	環境学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	前期	教室名	階段教室
担 当 教 員	中西 徹	実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》					
自然環境、社会環境、都市環境など、人間の生活を取り巻く環境とその人間、動植物への影響について学ぶ。特に環境問題に対して将来を予測しつつ総合的な対策を提案されている事例を考える。また地球温暖化現象、異常気象による自然災害など自然環境から現代社会の環境に視点をおき、環境問題の改善、解決に向けて自分でできる課題に取り組み、医療人として問いかける力を養いエコロジーなどの認識を高める。					
《成績評価の方法と基準》					
小テスト、出席ならびに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
授業時配布資料使用 参考図書は随時紹介					
《授業外における学習方法》					
予習・復習をすること					
《履修に当たっての留意点》					
常にニュースや新聞などを通し、環境に対する興味を持つこと					
授業の 方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	持参の資料	授業時配布資料を復習 する 授業時課題レ ポート	
		各コマに おける 授業予定			
第 2 回	講義 形式	1.環境問題の歴史について考え、その概略を述べるができる	持参の資料	授業時配布資料を復習 する 授業時課題レ ポート	
		環境問題の歴史について			
第 3 回	講義 形式	1.人間の健康と大気と野関連について考えを述べるができる	持参の資料	授業時配布資料を復習 する 授業時課題レ ポート	
		大気環境問題について			
第 4 回	講義 形式	1.人間の健康と水との関連について考えを述べるができる	持参の資料	授業時配布資料を復習 する 授業時課題レ ポート	
		水環境について			
第 5 回	講義 形式	1.人間の健康と廃棄物との関連について考えを述べるができる	持参の資料	授業時配布資料を復習 する 授業時課題レ ポート	
		廃棄物について			
第 5 回	講義 形式	1.人間の健康と地球環境との関連について考えを述べることができる	持参の資料	授業時配布資料を復習 する 授業時課題レ ポート	
		地球環境について			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 人間の健康と環境リスクについて考えを述べることができる	持参の資料	授業時配布資料を復習する 授業時課題レポート
		各コマにおける授業予定	環境リスクについて		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	1. 人間の健康と水の処理について考えを述べることができる	持参の資料	授業時配布資料を復習する 授業時課題レポート
		各コマにおける授業予定	水の処理について		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. これまで学んだ知識を看護に適用するあり方について記述できる	持参の資料	最終課題レポートの作成
		各コマにおける授業予定	終講試験・レポート含む		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	心理学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	前期	教室名	階段教室
担 当 教 員	横山 ひとみ	実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》 人間心理学は、一人ひとりを異なった独自の存在とみなし、自己実現への活動を主眼とする。人間の表面に現れた行動から、内面の心理を推察する方法を駆使することを通して、行動の科学として心理学の基本的な考え方を身に着ける。発達心理学、臨床心理学など人間や自分についての理解を深め、人間に対する幅広い視点を育てる。 1. 心理学を通しての基本的な考え方を身につける 2. 心理学の各領域の特色を理解する 3. 自分を客観的に見つめることができる					
《成績評価の方法と基準》 小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 配布資料 新体系 看護学全書 基礎分野 心理学 メディカルフレンド社					
《授業外における学習方法》 看護の対象はこころをもった人間なので、人間の心理に常に深く関心をもち、それに関連するメディア情報にも目を向ける					
《履修に当たっての留意点》 予習・復習をし授業に参加しましょう					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 心理学とはどのような学問か考え、看護における必要性を述べる ことができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	ガイダンス 心理学とは何か、心理学の歴史(行動主義心理学)について			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 1.心理学の歴史、研究方法について概略を述べる ことができる。 2. 発達心理学の必要性について述 べる ことができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	心理学の歴史、心理学の研究法、発達心理学について			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 1.動機付けと情動に関する理論について知り、看護との関連について述べる ことができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	発達心理学の続きと、動機付けと情動について			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 情動と性格に関する基本理論について知り、看護との関連について述べる ことができる	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	情動と性格について			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 知能に関する基本理論について知り、看護との関連について述べる ことができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	知能について			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. ストレス理論について知り、看護との関連について述べることができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	創造性とストレスについて		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. カウンセリングと心理療法について知り、看護実践への適用について考えを述べることができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	カウンセリングと心理療法に関して		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 人間の認知(知覚)について知り、看護実践への応用について考えを述べることができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	知覚について		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 人間の認知(感覚)について知り、看護実践への応用について考えを述べることができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	感覚について		
第10回	講義・演習形式	授業を通じての到達目標	1. 人間の認知(記憶)について知り、看護実践への応用について考えを述べることができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	記憶について (記憶実験を含む)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 学習理論の基礎について知り、看護実践への応用について考えることができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	学習について		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 人間の認知(思考)について知り、看護実践への応用について考えを述べることができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	思考について		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 社会心理の基礎理論を知り、看護実践への応用について考えることができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	社会の中の人(対人認知、対人関係の発展、対人魅力)について		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 集団心理の基礎理論を知り、看護実践への応用について考えることができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	心と社会(他者存在の影響、集団)について 脳と心について		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 脳科学の心理学への貢献について知り、心理学での学びを日々の生活に生かすための考えについて述べることができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	脳と心の講義、まとめ 試験		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	人間関係論	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	前期	教室名	階段教室
担 当 教 員	小松 弘子	実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》 心理過程とそれに基づく行動を探究する学問である。実践的な人間関係力の向上のために、「人との関わり」「周囲との関わりと成長」「人間関係の成り立ち」といった知識的学習をする。支援者である看護師にとってはコミュニケーション技術は重要な課題である。その具体的取組としてアサーティブトレーニングやロールプレイングなど場面設定した演習を取り入れ、他者も自分も尊重し、誠実な態度や正直・素直に自分を表現する力を育成する。 《成績評価の方法と基準》 小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する 《使用教材(教科書)及び参考図書》 講師資料 発達・社会から見る人間関係 北大路書房 基礎分野 人間関係論 医学書院 《授業外における学習方法》 学んだ理論を常日ごろの生活の中で活用するようにこころがけ、自身のあり方を振り返る習慣をつけていきましょう 《履修に当たっての留意点》 欠席しないよう、体調を整えましょう。					
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定	1. 人間関係論を学ぶ意義について述べるができる 2. 自己認知・対人認知について説明できる ①人間関係論とは ②自己認知 ③対人認知 について	教科書 授業資料	該当単元について教科書を読んでおく
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定	1・対人関係成立の条件と葛藤および対処のあり方について説明できる ①対人関係の成立 ②対人関係の維持と崩壊 ③対人葛藤と対処 ④社会的役割について	教科書 授業資料	該当単元について教科書を読んでおく
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定	1・対人関係に影響を及ぼす要因とコミュニケーションのあり方について説明できる ①態度と態度変化 ②説得的コミュニケーション ③攻撃 ④援助	教科書 授業資料	該当単元について教科書を読んでおく
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定	1. 集団における人間の心理と行動の特性について説明できる ①集団の特性 ②集団での課題遂行 ③集団での問題解決と意思決定 ④リーダーシップについて	教科書 授業資料	該当単元について教科書を読んでおく
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定	1. コミュニケーションに関する基礎的理論について説明できる ①コミュニケーションとは ②対人コミュニケーション ③マスコミュニケーション ④ICTの発達とコミュニケーション	教科書 授業資料	該当単元について教科書を読んでおく

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. カウンセリングの基礎的理論とその方法について述べることができる。	教科書 授業資料	該当単元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	①カウンセリング、心理療法の理論とスキル ・支持的精神療法 ・来談者中心療法 ・精神的動的な精神療法 ・カウンセリング演習		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 認知行動療法の基礎的理論と方法について説明ができる	教科書 授業資料	該当単元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	①行動療法 ②認知療法 ③認知行動療法について		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. コーチングの理論とスキル	教科書 授業資料	該当単元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	①コーチングの理論とスキル ・コーチングの定義 ・コーチングの歴史 ・コーチングの原理 ・コーチング演習		
第9回	講義 形式	授業を通じての到達目標	1. アサーティブなコミュニケーションのあり方について知り、自分自身の傾向について述べるができる	教科書 授業資料	該当単元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	①アサーションの理論とスキル ・事例を通して		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. チームにおける人間関係とコミュニケーションのあり方について述べるができる	教科書 授業資料	該当単元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	①医療におけるチームと看護師の役割 ②チームワークとチームエラー ③チームにおけるコミュニケーションとその予防		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 患者・看護関係における基礎的知識について述べるができる	教科書 授業資料	該当単元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	①患者・医療者関係 ②患者・看護師間の相互作用の評価 ③さまざまな看護場面における人間関係		
第12回	講義 形式	授業を通じての到達目標	1. 臨床での患者の特性を踏まえた人間関係のあり方について知り、自分自身の課題について知ることができる。	教科書 授業資料	該当単元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	・患者を支える人間関係 ・慢性疾患をかかえて生きる患者 ・死に向かう患者を支える人間関係		
第13回	講義 形式	授業を通じての到達目標	1. 子どもおよび精神に障害を持つ対象との人間関係形成に必要なことについて述べるができる	教科書 授業資料	該当単元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	①子どもと看護師との関わり ②精神障害をもつ患者と看護師の関わり I. 看護関係論 ・家族という存在 ・現代社会の家族の特徴 ・家族の定義 ・家族の機能 ・家族を理解するための理論		
第14回	講義 形式	授業を通じての到達目標	1. 家族看護の基本となる人間関係のあり方について説明できる	教科書 授業資料	該当単元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	①家族看護の展開 ②さまざまな状況と家族 遺族 ③個人を取り巻く人間関係		
第15回	講義 形式	授業を通じての到達目標	1. これまでの学習を振り返り、看護における人間関係に必要なことについて自分の考えを述べるができる	教科書 授業資料	該当単元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	人間関係論の概括		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	教育学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	後期	教室名	階段教室
担 当 教 員	原 安利	実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》 人間の生涯発達の特徴から、より良く生きることができるように育成することがねらいである。 生きていく環境や他者との相互作用を学ぶ。また、効果的な学習を学びながら学生自身が効果的にトレーニングできる課題を持ち成果を発表する。学生がプロセスから成果までを発表する演習なども取り入れ、主体的学習の能力を高める。さらに、看護実践に応用させ、発展と新しい視点を獲得できるよう方向づける。					
《成績評価の方法と基準》 小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 基礎分野 教育学 医学書院 子どもの社会力、学力を育てる					
《授業外における学習方法》 その授業の内容について教科書の該当単元を読むとともに、メディアの内容で関連のある情報などを収集し考えを深める					
《履修に当たっての留意点》 各授業から得たことと課題(問いかけ)を持ち続けること。					
授業の 方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 教育学を学ぶ意義について述べるができる	教科書	該当単元を読んで自分の考えをまとめておく	
	各コマにおける授業予定	看護を学ぶにあたって、何故教育学を学必要があるのかを教育と看護の両概念の比較を通して考察する。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 現代の特徴と教育をめぐる問題について知り、自分の考えを述べるができる	教科書	該当単元を読んで自分の考えをまとめておく	
	各コマにおける授業予定	文化伝達としての教育のあり方から、教育の原理を確認 p.6～23までを班でぶんとんしてまとめてくる。 教科書だけでなく参考文献も探してB41枚以上にまとめてくることを指示			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 1.教育カリキュラムの理論を知り、また自分自身の学びの目的について記述できる	教科書	該当単元を読んで自分の考えをまとめておく	
	各コマにおける授業予定	教育カリキュラムの理論。 病院での患者との関わりを踏まえる 課題レポート①この学校に入った理由(800字以上) ②この学校で学ぶ内容(自分で考えて教科を整理)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. カリキュラムの種類を知り、学びのあり方について述べるができる	教科書	該当単元を読んで自分の考えをまとめておく	
	各コマにおける授業予定	教科書p.80～ カリキュラム構成3つの分け方を押さえる 「教科書で教える」と「教科書を教える」の違いと意義についても確認 教師の意図せざる教育上の作用としてのヒドゥンカリキュラムについても触れる			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 教材のあり方について知り、健康教育について適用を述べるができる	教科書	該当単元を読んで自分の考えをまとめておく	
	各コマにおける授業予定	教材解釈と教師にとって大切なことについて説明。「共に」という視点を持つことは 教師としても生徒同士のつながりとしても肝要である。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 子供の発達段階と学習との関連を知り、看護場面への適用について述べることができる	教科書	該当単元を読んで自分の考えをまとめる
		各コマにおける授業予定	子供理解と生活指導において、指導は相手である子供の理解の視点を持たなければ、単純に押柄な営みになることを確認		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 教育的対話について理解し、看護への適用について述べる	教科書	該当単元を読んで自分の考えをまとめる
		各コマにおける授業予定	教育的対話の概念について説明、患者を受身で終わらせない看護のあり方の考察を行った。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. これまで学んだ知識を看護に適用するあり方について記述できる		
		各コマにおける授業予定	終講試験・レポート		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	倫理学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時間	前期	教室名	階段教室
担 当 教 員	鈴木 亮三	実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》					
倫理学とは看護実践行動の基準となる規範を示す学問領域である。生命倫理、医療倫理、看護倫理の歴史的経緯を踏まえ、看護倫理の基本理論や倫理的概念を学ぶ。					
《成績評価の方法と基準》					
小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
授業資料 参考資料は随時紹介					
《授業外における学習方法》					
講義に関連する報道・記事などに関心を持ち発展的理解に努めること。					
《履修に当たっての留意点》					
看護師は医療・福祉に欠かせないプロフェッショナルです。プロには、高い倫理観と高度な知識が必要です。自ら考え倫理的に判断でき看護師になるよう意欲を持って講義に参加してください。					
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 倫理学を学ぶ意義について述べることができる	授業時配布資料	授業資料を読み直しておく
	講義形式	各コマにおける授業予定	倫理学とは何か		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 倫理学における生命倫理が扱う領域について述べるができる	授業時配布資料	授業資料を読み直しておく
	講義形式	各コマにおける授業予定	生命倫理学の位置づけ		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 人間にとって健康の意味について倫理学視点から述べるができる	授業時配布資料	授業資料を読み直しておく
	講義形式	各コマにおける授業予定	健康の概念		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 人間にとって病気の意味について倫理学視点から述べることができる	授業時配布資料	授業資料を読み直しておく
	講義形式	各コマにおける授業予定	病気の概念		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 生殖医療における倫理的課題について、述べるができる	授業時配布資料	授業資料を読み直しておく
	講義形式	各コマにおける授業予定	生殖技術(1)		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 生殖医療における倫理的課題について、述べることができる	授業時配布資料	授業資料を読み直しておく
		各コマにおける授業予定	生殖技術(2)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 先進技術(臓器移植)における倫理的課題について、述べる ことができる	授業時配布資料	授業資料を読み直しておく
		各コマにおける授業予定	臓器移植		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 先進技術(脳死)における倫理的課題について述べる ことができる	授業時配布資料	授業資料を読み直しておく
		各コマにおける授業予定	脳死		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 生殖技術(出生前診断)における倫理的課題について述 べる ことができる	授業時配布資料	授業資料を読み直しておく
		各コマにおける授業予定	出生前診断		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 生殖技術(人工妊娠中絶)における倫理的課題について述 べる ことができる	授業時配布資料	授業資料を読み直しておく
		各コマにおける授業予定	人口妊娠中絶		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 死(尊厳死)における倫理的課題について述べる ことができる	授業時配布資料	授業資料を読み直しておく
		各コマにおける授業予定	尊厳死		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 死(安楽死)における倫理的課題について述べる ことができる	授業時配布資料	授業資料を読み直しておく
		各コマにおける授業予定	安楽死		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 死(老衰死)における倫理的課題について述べる ことができる	授業時配布資料	授業資料を読み直しておく
		各コマにおける授業予定	老衰		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 死(ターミナルケア)における倫理的課題について述べる ことができる	授業時配布資料	授業資料を読み直しておく
		各コマにおける授業予定	ターミナルケア		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. インフォームドコンセントと倫理的課題について述べる ことができる	授業時配布資料	授業資料を読み直しておく
		各コマにおける授業予定	インフォームドコンセント		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	家族と社会学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	後期	教室名	階段教室
担 当 教 員	杉井 将俊	実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》 人間の生活において、家族はかけがえのない存在であるが、同時に、育児・離婚・介護等の多くの問題が存在し、その状況は多様なものとなっている。そして、医療や福祉の充実により、看護職の役割も拡大する中では、かんじやのみならず、その家族の支援もとても重要となる。本講義では、家族に関する基本概念から、事例を用いての考察等により、患者と家族支援について理解し、関わり方を学んでいく。 《成績評価の方法と基準》 出席状況・受講態度・演習への取り組み方・試験にて総合的に評価する 《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 別巻 家族看護学 系統看護学講座 基礎分野 社会学 その他必要に応じて講義内で紹介 《授業外における学習方法》 予習・復習をおこなうこと。 《履修に当たっての留意点》 家族をめぐる問題について各メディアに興味・関心を持ち情報を得ておくこと。					
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.看護において家族と社会学について学ぶ意義について述べる ことができる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション 家族社会学概論Ⅰ >家族について			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.家族の機能について理解し、看護場面への適用について考え を述べるができる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
	各コマにおける授業予定	家族社会学概論 >家族の役割と機能、考え方			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 家族の発達過程およびシステムとしての家族を理解し、看護 場面への適用について考えることができる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
	各コマにおける授業予定	家族社会学概論Ⅲ >家族の発達過程とシステム理論			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 多様な家族像について理解し、看護場面への適用について 考えることができる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
	各コマにおける授業予定	多種多様な家族とその課題について >現代の家族像とそれぞれの考え方			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 家族看護のためのアセスメントの視点について説明できる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
	各コマにおける授業予定	患者と家族に関わる社会資源について >家族の状況とライフステージで捉える 家族へのアセスメントⅠ >さまざまな視点と情報収集、記録整備			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 家族看護のためのかかわり方について説明できる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	家族へのアセスメントⅡ 患者、家族との関わり方と支援		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 家族看護における他職種連携について述べることができる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	他(多)職種による支援について >各職種の役割、連携と看護職		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 医療現場における家族看護で大切なことについて自分自身の考えを述べるができる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	医療現場における家族と看護・支援Ⅰ >患者、家族の心身状況と関わり方		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 医療現場における家族看護のあり方について事例を通して説明できる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	医療現場における家族と看護・支援Ⅱ >看護職の関わり方と支援、事例検討		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 福祉領域における家族看護について考え、自分の考えを述べるができる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	福祉領域における家族と看護・支援Ⅰ 本人、家族の心身状況と関わり		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 医療現場における家族看護のあり方について事例を通して説明できる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	医療現場における家族と看護・支援Ⅱ >看護職の関わり方と支援、事例検討		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 福祉サービスと家族看護について理解し、看護場面への適用について述べるができる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	福祉サービス利用者とその家族Ⅰ >介護保険制度、障害福祉サービス利用者に医療が必要な場合について >疾患、障害等を踏まえた支援		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 福祉サービスと家族看護について理解し、看護場面への適用について述べるができる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	福祉サービス利用者とその家族Ⅱ >多面的な問題と関わり方、事例検討		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. これまでの学習内容を振り返り、自分自身の家族観を述べるができる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	総括講義①		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. これまでの学習内容を振り返り、自分自身の家族観を述べるができる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	総括講義②		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	コミュニケーション学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期	教室名	階段教室
担 当 教 員	侍留慶子	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》 ・コミュニケーションの概念・理論を理解し、看護師として医療の現場で効果的かつ適切なコミュニケーション行動を展開できるよう、演習(グループディスカッション・ロールプレイング)を通じて、コミュニケーションスキルを身につける。 ・医療専門職の一員として、多職種との協働・連携を図るためのコミュニケーションマナーの重要性を学び、社会人に必要とされる基礎能力を身につける。						
《成績評価の方法と基準》 演習、出席ならびに課題提出状況、実技・筆記試験で総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 授業時配布資料 参考図書は随時紹介						
《授業外における学習方法》 学習内容を日常生活の中で活用し、自己洞察を深めつつ技術を高めていく						
《履修に当たっての留意点》 配布資料を事前に予習し講義に参加すること						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 授業を通じての到達目標	1. コミュニケーションの基本知識について説明できる		授業時配布資料	授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活 で実践してみる	
	各コマにおける授業予定	コミュニケーションの概論 コミュニケーションの基本概念 コミュニケーション能力向上のための基本知識				
第2回	講義 授業を通じての到達目標	1. 非言語コミュニケーションについて説明できる		授業時配布資料	授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活 で実践してみる	
	各コマにおける授業予定	コミュニケーションの基本 非言語コミュニケーションについて 第一印象の3要素				
第3回	講義 授業を通じての到達目標	1. コミュニケーションの基本について演習を通して説明できる		授業時配布資料	授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活 で実践してみる	
	各コマにおける授業予定	コミュニケーションの基本 非言語、言語コミュニケーション(トレーニング)				
第4回	講義 授業を通じての到達目標	1. 相手に伝わるコミュニケーション技術について実施できる 2. 正しい言葉使いの必要性和その例について説明できる		授業時配布資料	授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活 で実践してみる	
	各コマにおける授業予定	伝わる伝え方、具体的な表現方法 正しい言葉使い 敬語の使い方、演習				
第5回	講義 授業を通じての到達目標	1. アサーティブなコミュニケーションのあり方についてシュミレーションできる		授業時配布資料	授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活 で実践してみる	
	各コマにおける授業予定	相手に配慮した伝え方(アサーティブコミュニケーション) グループワークでの演習				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1.ラポール形成に必要なスキルについて説明できる	授業時配布資料	授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる
		各コマにおける授業予定	ラポール(信頼関係)形成のスキル 肯定的表現方法		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. チームワーク力を高めるコミュニケーションについて説明できる	授業時配布資料	授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる
		各コマにおける授業予定	自己盲点と対応策 チームビルディングとは コンセンサス(合意形成)の演習		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. アンガーコントロールの基本について説明できる	授業時配布資料	授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる
		各コマにおける授業予定	感情のコントロール(アンガーマネジメント) 怒りの感情に振り回されないための感情コントロール法		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. ABC理論について説明できる	授業時配布資料	授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる
		各コマにおける授業予定	価値観の違いを知る(グループワーク) 多様性を認めるための思考法 思考と感情(ABC理論)		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 職場におけるコミュニケーションにおいて重要な点について述べることできる	授業時配布資料	授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる
		各コマにおける授業予定	職場におけるコミュニケーションマナー 職場における人間関係、職場のマナー、ビジネスコミュニケーション(報連相)		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. アクティブリスニングの基本について説明できる 2. アクティブに相手の話を聴く技術を実践できる	授業時配布資料	授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる
		各コマにおける授業予定	信頼される聴き方(アクティブリスニング) 信頼とは、聴き方の3原則 リスニングスキルの実践(ペアワーク)		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 文字コミュニケーションを実践的に活用できる	授業時配布資料	授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる
		各コマにおける授業予定	ビジネスコミュニケーションツールの知識 ビジネス文書の基本ルール ビジネスメール(eメール)		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 自己開示のために必要なことについて述べるができる	授業時配布資料	授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる
		各コマにおける授業予定	人間関係構築のための自己開示 自己開示のための自己分析、自己理解、ジョハリの窓、エゴグラム		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 相手にわかりやすいプレゼンテーションができる	授業時配布資料	授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる
		各コマにおける授業予定	プレゼンテーション 1分間スピーチ(自分の強み、目標とする看護師像について)		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 正しい日本語を用いて、レポート作成ができる	授業時配布資料	レポート作成
		各コマにおける授業予定	正しい日本語の知識 評価課題レポート作成(総まとめ)		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科		看護学科	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名		メディカル英語	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		1年生	学期及び曜時間	前期	教室名	1年A・B教室
担 当 教 員		ILC	実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》						
国際化の視点に立ち、医療現場での共通のコミュニケーションとして、英語での会話を求められることが多々ある。医学英語、看護英語の理解を中心に学習することで日常的に医療の現場で英語が理解できる。日常のコミュニケーション方法、医療現場で必要となる英語力を身につけるための学習とする。						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト、出席ならびに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
Nursing English in Action 株式会社国際教育社						
《授業外における学習方法》						
予習・復習を行うこと						
《履修に当たっての留意点》						
映画やインターネットなどで、日常的に英語に触れる機会を作りましょう。						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	1. 自己紹介を英語で伝えることができる	Nursing English in Action 株式会社 国際教育社	該当単元のテキストの 内容について予習・復 習する	
	各コマに おける 授業予定	自己紹介 異文化ロールプレイング 授業の目的、ルールの説明				
第2回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	1. 英語で挨拶ができる	Nursing English in Action 株式会社 国際教育社	該当単元のテキストの 内容について予習・復 習する	
	各コマに おける 授業予定	英語で挨拶ができる 道順説明 医療英語、診療科の名称				
第3回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	1. 英語で道順説明ができる 2. 英語で症状を聞くことができる	Nursing English in Action 株式会社 国際教育社	該当単元のテキストの 内容について予習・復 習する	
	各コマに おける 授業予定	道順説明 症状を尋ねる、伝える(医療用語)				
第4回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	1. 英語で症状伝えたり、聞くことができる	Nursing English in Action 株式会社 国際教育社	該当単元のテキストの 内容について予習・復 習する	
	各コマに おける 授業予定	症状を尋ねる、伝えるの練習問題 ペアワーク(会話練習)				
第5回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	1. 英語で問診表埋めることができる	Nursing English in Action 株式会社 国際教育社	該当単元のテキストの 内容について予習・復 習する	
	各コマに おける 授業予定	症状を尋ねる(復習) 問診表の言葉(会話練習)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 問診表を見ないで、英語で問診ができる	Nursing English in Action 株式会社 国際教育社	該当単元のテキストの内容について予習・復習する
		各コマにおける授業予定	症状を尋ねる、訴える会話練習 問診表の言葉と表現を覚える		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 英語で問診ができる	Nursing English in Action 株式会社 国際教育社	該当単元のテキストの内容について予習・復習する
		各コマにおける授業予定	問診表の言葉と表現を覚える 復習プリント、確認テスト		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. ADL介助に関する英語を話すことができる	Nursing English in Action 株式会社 国際教育社	該当単元のテキストの内容について予習・復習する
		各コマにおける授業予定	発音記号 ADL介助で使われる用具・備品		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. ADL介助に関する英語を話すことができる 2. 臓器の名称を発音できる	Nursing English in Action 株式会社 国際教育社	該当単元のテキストの内容について予習・復習する
		各コマにおける授業予定	ADLの動作、介助が必要かどうかの確認をする表現 臓器の名称		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 臓器の名称を英語で言える 2. バイタルサインに関する単語が読める	Nursing English in Action 株式会社 国際教育社	該当単元のテキストの内容について予習・復習する
		各コマにおける授業予定	臓器の名称復習 バイタルサインの語弊、表現		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. バイタルサインの際の会話が英語でできる	Nursing English in Action 株式会社 国際教育社	該当単元のテキストの内容について予習・復習する
		各コマにおける授業予定	バイタルサインの表現、会話練習 確認テスト		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 薬の種類、名称を英語で言える	Nursing English in Action 株式会社 国際教育社	該当単元のテキストの内容について予習・復習する
		各コマにおける授業予定	薬の種類、名称について テストについて		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 薬の飲み方、使い方を英語で読める	Nursing English in Action 株式会社 国際教育社	該当単元のテキストの内容について予習・復習する
		各コマにおける授業予定	薬の種類、名称について 薬の飲み方、使い方の指示①		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 医療場面でよくある場面の会話ができる	Nursing English in Action 株式会社 国際教育社	該当単元のテキストの内容について予習・復習する
		各コマにおける授業予定	スピーキングテスト 復習プリント		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 薬の飲み方、使い方を英語で読める	Nursing English in Action 株式会社 国際教育社	該当単元のテキストの内容について予習・復習する
		各コマにおける授業予定	薬の飲み方、使い方の指示②		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	健康スポーツ学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	前期	教室名	体育館・PCルーム
担 当 教 員	内海翔太	実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》 心身の健やかな成長をねらうと共に、自己の体調・健康管理につなげられる知識・技術を学ぶ。授業は、学生の体力つくりとエネルギーの発散につながる内容とし、また生活習慣病の改善や予防の1つとしての運動療法の効果なども学び、看護実践につなげる。 また、レクリエーション要素も取り入れ、仕事・学習など日常生活の中での肉体的・精神的疲労を癒し、元気を回復するための効果を学び、対人援助での人間関係を築く方法として対応する。 《成績評価の方法と基準》 小テスト、出席ならびに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価 《使用教材(教科書)及び参考図書》 参考図書は随時紹介 《授業外における学習方法》 基礎体力向上のため、普段より生活習慣を整えておくこと。 《履修に当たっての留意点》 積極的に参加すること。怪我の無いよう注意すること。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	バスケット、卓球用品	実践した競技について関心を持ちその競技の意味・意義について調べる	
	各コマにおける授業予定	1. 健康とスポーツとの関連について考え、スポーツ競技が実践できる オリエンテーション 様々な丘隅(バスケットボール、卓球など)			
第2回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	バレーボール用品	実践した競技について関心を持ちその競技の意味・意義について調べる	
	各コマにおける授業予定	1. チームでの競技ができる 2. 健康との関連について述べる ことができる バレーボール			
第3回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	バスケット、卓球、バトミントン用品	実践した競技について関心を持ちその競技の意味・意義について調べる	
	各コマにおける授業予定	1. チーム、ペア、シングルでの競技ができる バスケットボール、卓球、バトミントン			
第4回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	バスケットボール用品	実践した競技について関心を持ちその競技の意味・意義について調べる	
	各コマにおける授業予定	1. チームでの競技ができる 2. 健康との関連について述べる ことができる バスケットボール			
第5回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	競技に必要な物品	スポーツディの事前準備など	
	各コマにおける授業予定	1. 多人数でのレクリエーションのあり方について考え、自分の役割などの振り返りが述べれる スポーツディ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 多人数でのレクリエーションのあり方について考え、自分の役割などの振り返りが述べられる	競技に必要な物品	スポーツディの事前準備など
		各コマにおける授業予定	スポーツディ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. レクリエーションに関する基礎知識について説明できる	授業時配布資料	授業時資料の復習
		各コマにおける授業予定	講義 レクリエーションとは(歴史、役割、計画など)		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 室内でのスポーツができる	バトミントン、卓球 に必要な物品	実践した競技について 関心を持ちその競技の 意味・意義について調 べる
		各コマにおける授業予定	バトミントン、卓球		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 室内でのスポーツができる	バトミントン、卓球 に必要な物品	実践した競技について 関心を持ちその競技の 意味・意義について調 べる
		各コマにおける授業予定	バトミントン、卓球		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 健康の概念について理解し、自分の言葉で説明できる	授業時配布資料	授業時資料の復習
		各コマにおける授業予定	講義 健康の概念①		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 健康とスポーツの関連について理解し、看護への適用について述べることができる	授業時配布資料	授業時資料の復習
		各コマにおける授業予定	講義 健康の概念②		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. チームでの競技ができる 2. 健康との関連について述べる ことができる	バスケット、バ レーボール用品	実践した競技について 関心を持ちその競技の 意味・意義について調 べる
		各コマにおける授業予定	バスケットボール、バレーボール		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 室内でのスポーツができる	卓球、バトミントン 用品	実践した競技について 関心を持ちその競技の 意味・意義について調 べる
		各コマにおける授業予定	バトミントン、卓球		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 競技の意義を理解し、実践できる	バスケット、バス ケット用品	実践した競技について 関心を持ちその競技の 意味・意義について調 べる
		各コマにおける授業予定	バトミントン、バスケットボール(テスト:実技)		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 競技の意義を理解し、実践できる	卓球、バレーボ ール用品	実践した競技について 関心を持ちその競技の 意味・意義について調 べる
		各コマにおける授業予定	バレー、卓球(テスト:実技)		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科		看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名		生体機能学Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		1年生		学期及び曜時間	前期	教室名	階段教室
担 当 教 員		原 太久茂	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》							
看護の対象である人間についての基礎である人体の構造と機能を系統的に学習し、理解する。 生体機能学Ⅰでは、呼吸・循環器・血液について学ぶ。							
《成績評価の方法と基準》							
小テスト、出席ならびに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 医学書院							
《授業外における学習方法》							
予習・復習をしましょう							
《履修に当たっての留意点》							
授業で分からないことがあれば、そのままにせず教員・友達に質問し理解しましょう。							
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	1人体の見方、区分について説明できる		テキスト	(課題)	
	各コマに おける 授業予定	解剖生理学のための基礎知識 形から見た人体:体表から触知する人体の構造、人体の構造と 区分、人体の部位と器官、方向と位置を示す用語					
第2回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	1. 細胞と人体の関連について説明できる		テキスト	(課題)	
	各コマに おける 授業予定	解剖生理学のための基礎知識 人体とは、細胞の構造、細胞を構成する物質とエネルギーの生 成、細胞膜の構造と機能、細胞の増殖と染色体、分科した細胞 がつくる組織					
第3回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	1. 生命維持システムについて説明できる		テキスト	(課題)	
	各コマに おける 授業予定	解剖生理学のための基礎知識 機能から見た人体 生命維持システム、運動・調整システム					
第4回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	1. 体液とホメオスタシスについて説明できる		テキスト	(課題)	
	各コマに おける 授業予定	解剖生理学のための基礎知識 体液とホメオスタシス					
第5回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	1. 呼吸器の構造について説明できる		テキスト	(課題)	
	各コマに おける 授業予定	呼吸器の構造と機能(呼吸器の構造)					

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 呼吸器の機能面について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	呼吸器の構造と機能(呼吸:内呼吸・外呼吸、呼吸器と呼吸運動、呼吸器量、ガス交換とガスの運搬、肺の循環と血流、呼吸運動の調整、呼吸器系の病態整理)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 血液の成分と機能について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	血液の組織と機能(血液の組成と機能、赤血球、白血球)		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 血球成分の機能について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	血液の組織と機能(血小板、血漿タンパク質と赤血球沈降速度、血液凝固、血液型)		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1・血液循環と調整について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	血液の循環とその調整(心臓の構造、心臓の拍出機能)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 血液の抹消循環について説明できる。	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	血液の循環とその調整(抹消循環系の構造)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 心臓血管系の構造について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	血液の循環とその調整(血管の構造、肺循環、体循環)		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 血圧の調整について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	血液の循環の調整(血圧、血圧の循環)		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1.血液量の調整について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	血液の循環の調整(血圧・血液量の調節)		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. リンパとリンパ管について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	血液の循環の調整(循環器系の病態整理) リンパとリンパ管		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 呼吸器・循環器・血液の関係について身体を調整するメカニズムを説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	総復習		